

2020年度 バドミントン部 メンバーインタビュー

部員数 21～40人

所属学群 体育専門学群, 人間学群, 生命環境学群, 理工学群, 医学群, その他 (大学院など)

練習場所 第一体育館

主な成績

関東リーグ男女1部在籍 (直近の全国大会団体戦:2018年インカレ団体男子3位、女子優勝)

インカレ女子シングルス 香山2連覇

インカレ女子団体優勝 (5連覇)

香山 未帆 (体育4年/女子主将)

密林 祐太 (体育2年)

— 私が目指す「バドミントン」

香山

チームとしては、科学的根拠に基づいたトレーニングを通して、フィジカルをしっかり鍛えて、プレーするのが、筑波のバドミントンかなと思います。

密林

競技だけでなく、バドミントンを通じた国際交流など、競技力だけじゃなくて、バドミントンを通して学びを得ることも大切にしています。



— 筑波大学をどう思っていた？

香山

筑波大学は、大学の中で一番トレーニングをやっている大学。トレーニングがきついのが、筑波大学の印象です。

また、これまで女子はインカレで5連覇していて、チャンピオンチームということもあり、入学前から一人一人が、立ち振る舞いや試合での態度、中高生への接し方など、「自律しているチーム」だという印象を持っていました。そして、その先輩方の姿を目指して、今も頑張っています。

密林

将来、高校の保健体育の教員になりたい、そして日本で体育やスポーツを学ぶなら筑波、さらに、どうせ学ぶなら高いレベルで学びたいと思い、筑波を選びました。どちらかという、部活よりも、勉強面で、高いレベルの学びを受けたいと思って筑波大学を選びました。

— 今のチームで学んだこと、チームの好きなおところ

香山

責任感、達成に向けて持つ覚悟を学びました。

1年生の時は、高校生気分が抜けなくて、それでも1人の人として見られる。1年生だから意見しないのではなく、学年関係なく責任感を持つ、団体優勝に向けて覚悟を持たなくてはいけなかった。学年は関係なく、人として対等にみられる、そういった点をチームでは求められたので、責任感や覚悟について学びました。

上下関係がないところ、1年生だから、はなくて、1年生だけど対等。先輩に対しても意見できるのはいいところで、好きなおところですよ。

そして、バドミントン部のいいところは、いろんなレベルの選手がいるところです。他の大学では、これだけ高いレベルのチームには、競技レベルの制限がある場合が多い。筑波のバドミントン部は、一般入学でも、体育専門学群ではない人も入部できますし、それがいい方向に働いているチームでもあります。

密林

日本一を目指すチームで活動する中で、本当に活躍できる人は、一つのことにひたむきに取り組める人だと感じました。全国トップクラスの人と活動できる環境は刺激的で、そこがいいなと思っています。



— これからの目標（直近の目標、人生の目標）

香山

チームとしてはインカレアベック優勝を目指しています。

長期的には、「バドミントンに感謝される組織、存在でいたい」という目標もあります。筑波大学バドミントン部のおかげで、バドミントンの認知度が上がったり、いいスポーツだと知ってもらう、そんな存在になることを、チームとして目指しています。個人的には、卒業後も選手として「あの子は筑波のバドミントン部出身」だと、いい意味で捉えてもらえるような選手になりたいです。高卒で選手になる人も多い中で、大学に行って4年間学んだからこそ、この選手いいよね、今のあなたがあるよねって言ってもらえるようになりたいです。

密林

大学にいる間に、4年になった時に、チームの支えになれるような存在になりたいです。今、2年生の男子が2人しかいない。自分たちが4年生になった時に不安な面もあるが、それでも支えられるような存在になりたいです。

将来は高校の保健体育科の教員になりたいと思っています。そこで、スポーツを好きな子供達を増やしたり、部活を通じて、子供の成長を支えられるような教員になりたいです。

— 未来のチームメイトに一言

香山

練習もハードで、きついと思うし、考え方や立ち振る舞い、いろんなところで高い水準が求められるチームだと思います。中途半端な気持ちで入部すると、挫折を味わうかもしれません。ただ、毎日このチームで学び続けようという覚悟や姿勢があれば、4年間ですごい成長が得られる場所です。

是非4年後の自分に期待して入ってきてくれたらいいなと思います。

密林

これから受験勉強もあり、辛い時間を過ごすこともすごくあると思います。ただ、それを乗り越えて、入学して、筑波大学バドミントン部に入る価値は大いにあります。辛抱強く頑張ってください！

